国際経済史協会

International Economic History Association

(IEHA)

2024年12月

日本学術会議経済学委員会IEHA分科会

International Economic History Association (IEHA)
経済史研究者の国際研究ネットワーク

沿革と日本学術会議の関わり：
世界各国の経済史に関する国内学会及び経済史分野の国際学会の連合体として1960年に組織された。日本学術会議は、国内の複数の経済史関係の学会を代表して加盟し、日本の経済史学界全体を先端的な国際研究ネットワークと緊密に結びつけるリエゾンの役割を果たしている。

現在のIEHAの構成：
会長：Liliane Pérez （EHESS, Centre Koyré,フランス）
副会長：Anne McCants（MIT,米国）
事務局長: Leigh Gardner (LSE,英国)

運営機構：General Assembly（総会）3年に1回
Executive Council （理事会）毎年

日本人研究者のプレゼンス：
IEHAでは数十年前から日本人が理事を務めてきた。岡崎哲二（東京大学）は、2012年～2015年に副会長、2015～2018年に会長、2018～22年は名誉会長を務めた。 城山智子（東京大学）は、2018年から理事を務めている。IEHAは、日本人研究者のプレゼンスが、きわめて高い国際学会である。

IEHAの目的：国際研究ネットワークを通じて、経済史に関係する研究の普及・発展と出版の促進を進める。

日本の貢献：
日本人研究者のイニシアティブの下で、3年に一度、世界の各都市で開かれる大会World Economic History Congress(世界経済史会議）（1000-1400名の経済史・同関連分野の研究者が参加）が、 2015年にアジアで初めて京都で開催された（日本学術会議共同主催）。“Diversity in Development”を共通論題に掲げ、多元的な経済発展の多様性の在り方を、日本から世界に向けて発信し、大きな学術的・社会的貢献を行った。

学術的成果と社会貢献：
- 新しい学術研究の探求：経済史学は経済学と歴史学の境界に位置する領域であり、近年より高いレベルでの両分野の融合が進んでいる。
- 近年の経済史研究の大きな成果として、2024年ノーベル経済学賞は、ヨーロッパの植民地で導入された政治・経済制度を検証し、国家の繁栄に社会制度の違いが重要な原因になることを示した、D. アセモグルらの歴史経済分析に対して授与されている。

World Economic History Congress　世界経済史会議

世界経済史会議（WEHC）は、IEHAの主要な活動の一つである。地球環境の保全と持続可能な発展が求められる現代世界にあって、“Resource”（資源）を共通論題とした第19回世界経済史会議は、コロナ禍のため一年延期されたものの、2022年7月25日～29日にパリで、1100名以上の現地参加者と300名余りのオンライン参加者を集めて開催された。

World Economic History Congress

28 July -
1 August 2025

Lund, Sweden

WEHC
2025 LUND
EQUALITY & SUSTAINABILITY
CHALLENGES

第20回世界経済史会議は、“Equality & Sustainability Challenges”（平等と持続可能性をめぐる挑戦）へと共通論題を展開させ、2025年7月28日～8月1日にルンド（スウェーデン）で開催される。予定されている200余りのパネルセッションには、100名程の日本人研究者の参加が見込まれている。